

## 京大植物園を考える会

### ■京大植物園(京都大学大学院理学研究科附属植物園)

1925年創立。京都大学北部構内(京都市左京区北白川)に設置。

- ・生態植物園
  - 系統分類を考慮した植栽、池や湿地を配置
  - できるだけ自然に近い状態を保った管理
  - 樹木、草本、きのこ、昆虫、鳥などが生息
- ・研究、教育、憩いの場
- ・都市の中の自然

### ■京大植物園を考える会

2003年4月設立。京大教職員、学生、近隣住民ら有志により構成。

#### 活動目標

- ・京大植物園の存在価値を広める
- ・それぞれの立場を越えて、ともに植物園の将来像を考える

#### 主な活動内容

- ・植物園観察会(2003年4月から毎月1回、計47回)
- ・シンポジウムの運営
  - 2003年11月「京大植物園80周年記念シンポジウム」
  - 2005年4月「植物園はいま」
- ・情報、意見の集約
  - 京大植物園を利用した研究実績の整理
  - 京都大学理学研究科への提案書、質問状などの提出 など

### ■活動支援事業「大学植物園を活用した環境教育連続講座」

#### 【目的】

大学植物園において市民対象の自然観察会やシンポジウムを開催し、

- ・参加者に身近な自然を観察、モニタリングするための基礎的な知識を身につけてもらう
- ・自然観察という体験の共有により、大学構成員と地域住民との交流を図る

#### 【内容】(添付の表も参照)

##### 自然観察会

2006年6月～2007年2月 月1回、計9回実施。

- ・植物園を研究等に利用する研究者、大学院生等による解説
- ・植物を中心に様々なテーマ  
(どんぐり、イヌビワ、シダ、コケ、きのこ、植物園と吉田山、活断層、森で語ろう)
- ・参加者平均40人  
うち学外からの一般市民が7割。京大教職員、学生など大学構成員が3割。

★参加者間での意見交換

「植物園と吉田山」(2006年8月)

植物園のすぐそばにある吉田山と植物園とを比較しながら観察した。

- ・吉田山の昔の姿を知る参加者が当時の様子を話してくれた。
- ・吉田山の景観は、人と自然のかかわり方の変化により、昔と大きく変わった  
→参加者の間で里山管理のあり方に対する討論

「森で語ろう」(2006年9月)

京大植物園や身近な自然のことなどについて、参加者に自由に語ってもらった。

- ・京大植物園で好きな所  
ユクノキの開花を見て感動した  
自然にふれることができる
- ・これまでの観察会に対する感想、要望等  
京大植物園観察会でコケを教わってから、自分の家の近所でも観察してみた。
- ・植物園の将来像 近隣の小学校の授業などにも是非活用してほしい

シンポジウム

「植物園と植物採集 ～生きている標本の価値を考える～」

2006年11月23日実施(京都大学学園祭期間中に、「植物園まつり2006」を開催)

(午前)植物園観察会

(午後)京都大学総合博物館、標本収蔵庫見学

懇談会「植物園と植物採集 標本って何だろう」

午前、午後とも参加者60人前後

その他の活動

- ・日本環境教育学会での発表(2006年8月)  
「大学植物園の観察会が学内や地域社会ではたす役割  
～『京大植物園を考える会』の実践から～」
- ・ニュースレター「ゆくのき通信」の創刊(2006年11月)

【参加者の感想】(毎回終了後に記入)

- ・今まで知らなかった世界を知ることができた
- ・京大植物園に入ることができてよかった
- ・説明が分かりやすかった
- ・人数が多すぎて説明が聞こえにくかった
- ・樹木の名札を見やすくしてほしい

【活動の効果】

- ・参加者の身近な自然への関心が高まった
- ・参加者間で身近な自然のあり方についての意見交換を行うことができた
- ・学内と学外の交流を図ることができた

【今後の課題】

- ・参加者がより主体的に観察、情報を発信する場
- ・身近な自然のモニタリングネットワークの構築